

から中心位置を決めることにより、コア領域の実際の気圧中心や、衛星レーダーによる中心にみられるトロイダル運動などの短周期変動を除去した、安定した移動が得られ、この情報が進路予報精度向上に役立つことが、上陸時の具体例と共に示された。

飛行機からドロップゾンデを多数落とし、取得データを衛星経由で解析センターに伝送してリアルタイムで利用するシステムも米国で試験中である。こちらはTC周辺の総観場解析の精度向上を目標としており、数値予報の改善例も示された。

飛行機観測資料利用の解析的調査が、最近米国コロラド州立大学で始められていることに注目する必要がある。コンポジット手法により、種々の層別化された状況下のTCの構造に深く立入っており、この有望な資源が日の目を見つつある。

レーダーも地上・航空機搭載両面でデジタル化とドップラーレーダー化が進んできた。

今回のワークショップでは、このようなTechnologyの発展が、数値予報の開発とともに、最近のTCの予報精度の高原(Plateau)傾向を打破する車の両輪としてハッキリ認識することができた。またTechnologyの発達には、異質で非同時の多くの観測資料を生む。TC予報のための4次元同化解析手法の開発を準備しておく必要性を痛感した。

最後に、今回のワークショップでは、予報業務面の収獲も少なくなかったことと、ここで述べたような先端技術の途上国への技術移転の問題や、研究者と予報官との間のギャップ解消策などについて突込んだ議論もでて、有益だったことをつけ加える。

第13回(昭和61年度)日産学術研究助成候補の推薦募集

1. 助成の趣旨

自然科学を主とする学術の有意義な研究であって、先駆的かつ独創的なもの、また学際的なグループによって行われるものに対し助成を行い、わが国の基礎学術の向上、進展に寄与しようとするものであります。

2. 助成対象研究分野

助成対象を資源・エネルギー、環境の分野の基礎研究および応用研究とし、本年度は当該分野のうち次のような研究を期待します。(省略)

なお、極めて創意性に富むもので、これを実証する研究業績によって将来の発展が見込まれる萌芽的研究に対しては一般研究助成(B)とし、また必ずしも実験を伴う研究のみでなく、いわゆるソフトの研究に対して調査研究助成として扱います。

3. 助成対象の研究者

貴学(協)会に関する自然科学分野の研究に従事しており、1~3年を要する上記の研究を行おうとする研究者および研究グループで、その研究成果が学術の進歩、発展に貢献する所が大きいと思われるもの。

4. 研究助成金額と助成件数

一般研究助成(A)は研究期間が長期にわたる研究、学際的グループ研究等で、助成期間は2~3年、総額約2億円、10件程度。一般研究助成(B)は極めて創意性に富む萌芽研究で、助成期間は1年、総額約4千万円、15件程度。調査研究助成は総額1千万円で3件以内。

5. 推薦件数

助成区分を通じ1学・協会より1~3件とします。

6. 推薦者

学・協会の代表者とします。

7. 推薦手続

所定の推薦用紙に必要事項を記入し、当財団あてに1部をご送付願います。

8. 推薦締切日

昭和61年11月10日(月)

詳しいお問合せは下記にお願い致します。

〒100 東京都千代田区麹町 4-5

日本気象協会中央本部

Tel. (03) 295-1521

竹内 清 秀